

# 十字路

コロナ禍の影響で、今年は出生者数の大幅減少が避けられそうもない。人口減少に拍車がかかると、生産性を高めないと経済成長できないという議論が強まってくる。

これは間違いではないが、人口が増加していても、経済成長の多くは、生産性の上昇によってもたらされている。問題は、人口が減少する社会では、生産性の上昇が極めて難しいということだ。

生産性の上昇のカギはIT（情報技術）や人工知能（AI）の活用といった技術革新による供給力向上と言われている。

## 量より質の時代の価格競争

いるが、現実の世界では需要の増減が生産性を左右する。人口の減少は、労働力投入の減少によって供給力を低下させる可能性がある一方で、

確実に需要を減少させる。生産性の上昇を、需要の拡大に頼れる時代はもう終わった。

量より質で成長しなければいけないと言われて久しいが、質の向上による生産性上昇は難しい。それに見合った対価が支払われないからだ。

日本のサービス業の生産性は低いと言われるが、それはサービスの価値にふさわしい対価がつけられていないからではないか。質の高いサービスを提供しても価格に反映されないどころか、モノの販売促進の手段として使われるこ

ともある。いくら世界最高水準のおもてなしであっても、ただで提供したら価値を生み出したことにならない。

モノであってもサービスであっても、その質にふさわしい対価で提供されるようになつたら、日本の生産性は一気に高まるかもしれない。

量の拡大で成長できる時代は価格を下げる競争が販売数量の増加をもたらす、生産性上昇に有効であった。しかし、量の拡大が期待できず質の向上で成長する時代には、その価値に見合った価格を設定する厳しい競争が生産性上昇には必要となってくる。

（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）

研究主幹 鈴木 明彦